

【切手デザイン】

400年の伝統を誇る「片貝まつり」は、三尺玉発祥の地として知られる片貝町で毎年9月9日、10日に行われます。「筒引き」「玉送り」等の伝統行事や世界最大とされる四尺玉の打ち上げなど町中が花火一色となる熱狂的なお祭りの魅力を盛り込んだフレーム切手が完成しました。

浅原神社奉納大煙火

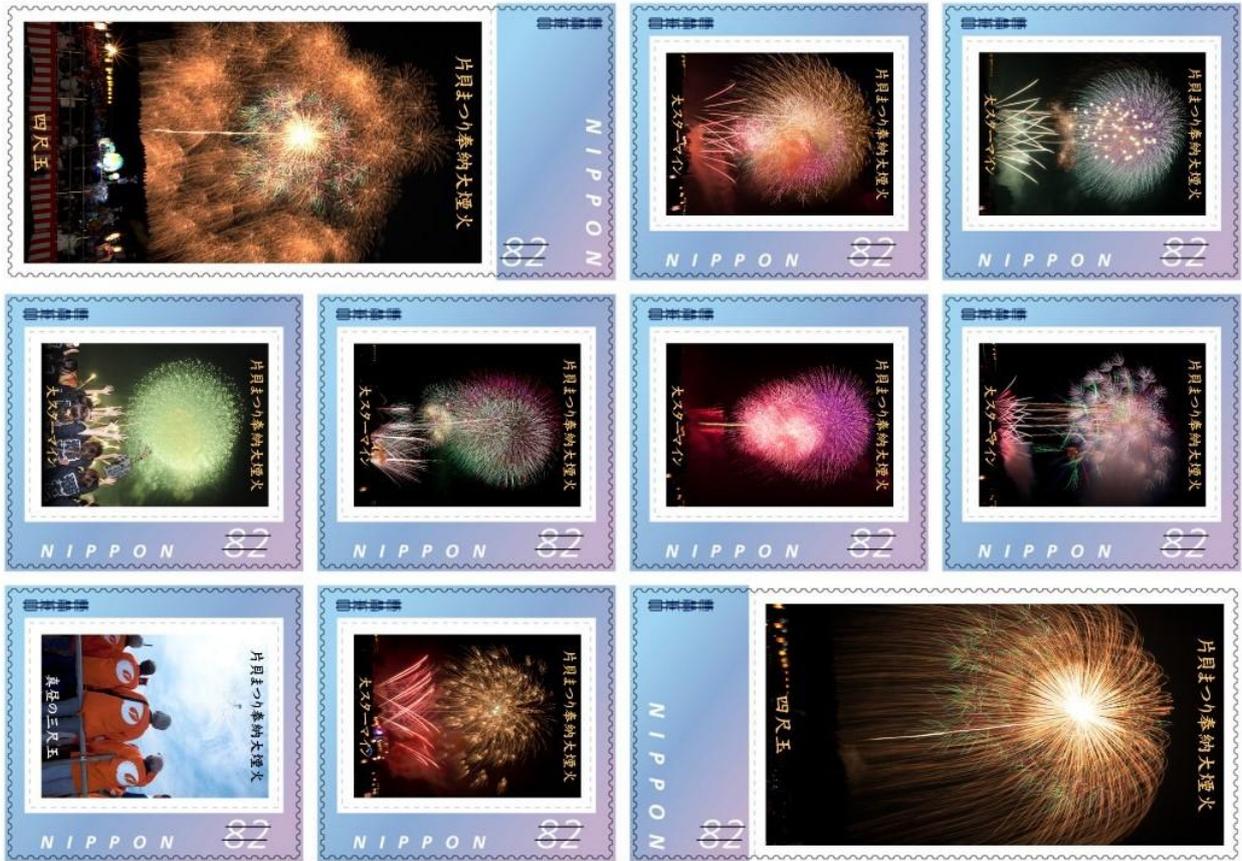
世界一 四尺玉花火

片貝まつり

大花火のふる里・三尺玉発祥の地 片貝町

小千谷市片貝町で毎年9月9日・10日に浅原神社秋季大祭・片貝まつりが開催され、メインイベントとして奉納煙火が盛大に行われます。片貝まつりは400年の歴史がありますが、全国に知られるようになったのは明治24年に三尺玉花火が打ち上げられ「三尺玉発祥の地」と言われるようになったからです。四尺玉の花火の玉の大きさは直径約120cm、重さ約420kgです。昭和59年に打ち上げに失敗しましたが、翌昭和60年に見事成功して直径約80cmの大輪の花を吹かせました。そしてこの成功により世界最大の花火として千本スワックに掲載されました。片貝町民の花火にかける意気込みは盛んで、まつりでは四尺玉のほか三尺玉(後、趣)、大仕掛、大スター等数多くの奉納煙火が打ち上げられます。豪華素晴らしい花火大会に応じて勇壮な筒引き、玉送り行事などが行われ、内外からの見物客で町はまつり一色となります。

毎年9月9日・10日



- 切手と写真部分を郵便物に貼って、ご利用いただけます。
- 写真部分だけでは、切手としてご利用いただけません。
- 郵便料金納付のためにこの切手をご利用の場合、写真部分に消印がかかることがあります。